北九州工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	授業科目	文章表現論				
科目基礎情報										
科目番号	0008			科目区分	一般 / 必	修				
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 学修単位	: 2				
開設学科	生産デザイン工学専攻			対象学年	専1	専1				
開設期	後期			週時間数	2	2				
教科書/教材	坂東実子著『大学生のための文章表現 練習帳』国書刊行会									
担当教員	古賀 崇雅									
到達日煙										

# 到连日倧

- 1. 社会人として必要な日本語表現能力を習得し、実践できる。情報を収集・分析し、自らの考えを文章にまとめることができる。2. 他者の意見について、客観的な評価や建設的な助言ができる。3. 自らの考えを論理的に構成し、相手に向かって効果的に伝えることができる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	社会人として必要な日本語表現能 力を習得し、実践できる。情報を 収集・分析し、自らの考えを客観 的に文章にまとめることができる 。	社会人として必要な日本語表現能力を習得し、実践できる。情報を収集・分析し、自らの考えを文章にまとめることができる。	社会人として必要な日本語表現能 力を習得し、実践が困難である。 情報を収集・分析し、自らの考え を文章にまとめることができない 。
評価項目2	他者の意見について、客観的な評価や、相手に伝わりやすいように 建設的な助言ができる。	他者の意見について、客観的な評価や建設的な助言ができる。	他者の意見について、客観的な評 価や建設的な助言ができない。
評価項目3	自らの考えを論理的に構成し、聞き手を意識した上で相手に向かって効果的に伝えることができる。	自らの考えを論理的に構成し、相 手に向かって効果的に伝えること ができる。	自らの考えを論理的に構成し、相 手に向かって効果的に伝えること が困難である。

## 学科の到達目標項目との関係

専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE① 歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE② 実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SF① 歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。

## 教育方法等

概要	実践的技術者に必要な日本語の表現能力を豊かにし、言語活動の向上を図る。社会人として必要な、文章や口頭発表に よる自己表現能力の充実を図る。
授業の進め方・方法	学習する単元を予習復習すること。質疑応答も評価に関わる。問いに対して簡潔明快な答えること。辞書類を持参し、広く活用すること。
注意点	毎講、学習内容に対応した課題を出すので、必ず学習してくること。課題の提出期限は厳守すること。また、口頭発表 に向けて、十分な準備を行うこと。

### 授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス	授業概要及び履修心得・学習方法を把握する。発表順 を決める。書き写しのポイントを把握し、実践する。 文体の統一を意識する。
		2週	文章の整え方	話し言葉と書き言葉の相違を理解し、話し言葉から書き言葉に直すことができる。
		3週	文章の整え方	箇条書きの情報を文章に、文章を箇条書きになおすことができる。原稿用紙の使い方を復習し、正しく文章を書くことができる。
	3rdQ	4週	文章の書き方	主観的な表現と客観的な表現を分けて記述することが できる。自己アピール文の作成し、お互いに批評する ことができる。
		5週	文章の書き方	推敲・添削の方法を学び、学生同士で文章の添削をすることができる。
		6週	文章の書き方	賛成・反対の意見文 1 身近な問題をテーマに小論文 を作成できる。
後期		7週	文章の書き方	賛成・反対の意見文 2 社会的な問題をテーマに小論 文を作成できる。
		8週	文章の書き方	before/afterの文章 1 自分の変化について小論文を 作成できる。
	4thQ	9週	文章の書き方	before/afterの文章 2 社会的な変化について小論文 を作成できる。
		10週	文章の書き方	対立項と時間軸のある文章 資料を読んで情報を読み 取り、考察を小論文に書くことができる。
		11週	総合的な実践演習	敬語について学ぶ。
		12週	総合的な実践演習	敬語の実践1 メールの書き方について学ぶ。
		13週	総合的な実践演習	敬語の実践2 手紙の書き方について学ぶ。
		14週	総合的な実践演習 まとめ	1~13週で学んだ文章表現を復習し、場面に沿った 書き方を学ぶ。
		15週	定期試験	1~14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	定期試験解説	定期試験の内容を理解し、復習する。

## モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的 能力		態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	

試験     発表・課題     相互評価     態度     ポートフォリオ     その他     合計       総合評価割合     50     50     0     0     0     0     100       基礎的能力     50     50     0     0     0     0     100										
国の次東ルのは、自らを選して行動できる。				I ====================================			に取り組むことがて	<u>で</u> きる。		
日常の生意における時間管理、保味管理、全銭管理などができる。				_ I					-	
社会の一員として、自らの行動、発言、後勤を影響して行動できる。   デームで図画・共同することの高落・効果を認識している。				1 5					4	
<ul> <li>あ。         チームで協調・共同することの回意・効果を認識している。 4         チームで協調・共同することができる。 4         サームで協議・共同することができる。 4         リーラーがとめたののコミュラーションをとることができる。 4         リーターがとめた日春の場所をできる。 4         リーターがとめた日春の場所をできる。 4         リーターがとめた日春の場所を打ちてきる。 4         リーターがとめた日春の場所を打ちることができる。 4         リーターがとめた日春の場所を打ちることができる。 4         リーターシップを開酵するにはおり取りまからことができる。 4         リーターシップを開酵するにはおり取りまから、 4         他者のかかれているまと参加している。 4         他者のかかれているまの参加でした行動がとれる。 4         他者のかかれているまたが見たことが記述した行動がとれる。 4         他者のかかれているまたが見たに行動がとれる。 4         他者のかかれているまたが見たがしたできる。 4         他者のかかれているまたが見たが見たといる。 4         他者のかかれているまたが見たとれる。 4         他者のかかれているまたが見たにないますがまかまります。 4         そその時々で目らの財産といるよとを認識している。 6         中の時々で目らの財産できるととを記述している。 6         中の時々で目らの財産できるがとなど難している。 6         中の時々で目の対象があるよとを記述している。 6         中の時々ではらの対象があることを認識している。 6         中で人た世内の別のかかた人と、であるまための基本がおくで向かない。 6         中の時ででしたの対象を対象を対象による。 6         中の時ででは、またいの別のかかた人と、であるととなど違している。 6         中家人としての権権があるととを必要している。 6         中家人としての権権があるととを必要している。 6         中家人としての者をおおよいのようなどからなどがあるようなどのとながあるとなどがあるとなどを必要している。 6         中家人としての者をおおよいのようなどのとながあるといる。 6         中家人ととしてのよるが表があるまための基本がおよいのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなど</li></ul>					日常の生活における。 。	る時間管理、健康管	管理、金銭管理など	ごができる	4	
# ムで協議・計画するために自身の原体をコントロールル、他名の意名を報まするためのコミューケーションをとることができる。						、自らの行動、発	言、役割を認識して	行動でき	4	
### おの意思を尊重するためのコミュニケーションをとることができる 4 ### ### ### ### ### ### ### ### ###					チームで協調・共口	司することの意義	・効果を認識してい	いる。	4	
当中有意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる   チームのメンバーとしての役割を即限した行動ができる。   4					者の意見を尊重する				4	
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。				1 t		てチームでの作業	・研究を進めること	こができる	4	
プリングン たが振っています。 4					チームのメンバー。	としての役割を把	握した行動ができる	5.	4	
リーダーシップを影響する(させる)上めには情報収集やチーム内 4   1   1   1   1   1   1   1   1   1				I +					4	
での相談か必要であることを知っている					適切な方向性に沿 <sup>.</sup>	った協調行動を促	すことができる。		4	
他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。					リーダーシップを での相談が必要で	発揮する(させる)カ あることを知って(	ためには情報収集や いる	チーム内	4	
接続が社会や自然に及ぼすぎ継い効果を認識し、技術者が社会に 4 自身の将来のありたい姿にキャリアデザイン)を明確化できる。 4 その時々で目のの対象を認識し、円球のありたい姿に同かってい 4 くだめに現状で必要な子書が動き考えることができる。 キャリアの実現に向かってい 4 くだめに現状で必要な子書が動き考えることができる。 キャリアの実現に向かって不業後も継続的に子習する必要性を記 4 調査している。 これからのキャリアの中で、様々な組織があることを認識している。 高書でどんだ専門分野・・ 解析目の知識が、企業や大学等でどの 4 ように活用・ 6 時代1 名かを説明できる。 4 企業とよりできる。 4 企業とよりできる。 6 企業をおける分を説明できる。 4 企業とよりできる。 6 企業をおける分を説明できる。 6 企業における分を説明できる。 6 企業における分を説明できる。 6 企業における所有できる。 6 企業における所有できる。 6 企業における所有であることを認識している。 6 企業における所有であることを認識している。 6 企業には社会の責任があることを認識している。 6 企業を認識している。 6 企業を認識している。 6 企業を認識している。 6 企業を認識している。 6 企業を認識している。 6 での表えを認識している。 6 技術者として 6 位表のよりになら、技術者が知思や感性・チャレンジ精神などを駆使して実践な活動 4 を行った事がを学行ることがご認定できる。 6 企業をご認している。 6 企業をごのように 6 位表のなどの条体を認識している。 7 空かな課題を認識のも自身に必要を定さしている。 7 空かな課題を記述の条体を認識している。 7 空かな課題を認識のも自身に必要を定さしている。 7 空かな課題を認識のも自身に必要を定さしている。 7 できる。					法令やルールを遵	守した行動をとれ	る。		4	
負っている責任を挙げることができる。									4	
その時々で自らの現状を認識し、(将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。								が社会に	4	
大かに現状で必要な学習や活動を考えることができる。					自身の将来のあり	たい姿(キャリアテ	ザイン)を明確化で	: きる。	4	
讃している。									4	
#は、直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべ 4 きことを多面的に判断できるなどを認識している。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの 4 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げ 4 企業人としての責任を利用することの重要性を認識している。 4 企業には社会的責任があることを認識している。 4 企業が国内がで他社(他者)とどのような関係性の中で活動している。 4 企業が国内がで他社(他者)とどのような関係性の中で活動している。 4 企業が国内がで他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているが期間できる。 6 企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 6 企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 5 技術者が知恵や命性、チャレンジ精神などの様点が重要である 4 社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識 4 している。 5 技術者が知恵や命性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動 4 を行った事例を挙げることができる。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように 4 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 こうュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき きる。 こう・コニュケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 1 で業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 こう・コニュケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 2 で業人として満足している。 第経会的な学 2 部舎のな学 2 部舎のな学 2 部舎のなど 2 できる。 2 エ学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。 4 公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点 3 部経験を創 2 連携験を入的 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2					識している。				4	
ように活用・応用されるかを説明できる。					難に直面したときの	の対処のありかた(	(一人で悩まない、イ	認識し、困 優先すべ	4	
					高専で学んだ専門? ように活用・応用?	分野・一般科目の されるかを説明で	知識が、企業や大学 きる。	等でどの	4	
おけっぱ   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日					企業等における技術	術者・研究者等の	実務を認識している	5.	4	
の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。         4           企業には社会的責任があることを認識している。         4           企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動している。別音、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 で業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。とされることを認識している。技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。         4           技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。         4           技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。         4           高事で学んだ専門分野・パララス・脚内されているかを認識できる。         4           企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき作力」の必要性を認識している。コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき作力」の必要性を認識している。習経験と創造的思考力の必要性を認識している。場所力の必要性を認識している。場所力の必要性を認識している。コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき作力の必要性を認識している。場所対象を論理を論理を含している。場所対象を含理している。現場の思すべきことを認識している。要求の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点を対象と創造的思考力がら課題解決のために配慮すべきことを認識している。とかできる。とかできる。         4           総合的な学 習経験と創造的思考力 造的思考力 造め思考力 造め思考力 造め思考力 造め思考力 造め思考力 造め思考力 おの思す としたシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこまができる。         4           製造の思考力 おり したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこまができる。 の 0 0 0 100         0 0 0 0 100           製造的思考力 おり り 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						任ある仕事を進め	るための基本的な行	う動を上げ 	4	
企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているが説明できる。   ヨアンターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界 の抱える課題を説明できる。   企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。   社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。   技術者が知恵や曖性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。   高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように   名情力・活動・名行った事例を挙げることができる。   高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように   名情力・活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。   コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき   金前の影響などの多様な観点   から課題解決のために配慮すべきことを認識している。   本籍を表しまして、   本籍を表しましている。   本籍を表します。   本籍を表しましている。   本籍を表します。   本籍を表した。   本籍を表した。   本籍を表します。   本籍を表した。   本語を表した。   本語を表している。   本語を表した。   本語を表している。   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語を表し、   本語									4	
おお説明できる。				I +					4	
の抱える課題を説明できる。  企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要である   全差認識している。  社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識   位している。  技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要   4   をされることを認識している。  技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動   4   をされることを認識している。  直帯で学んだ専門を挙げることができる。  高専で学んだ専門を挙げることができる。  企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。  コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき   4   コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき   4   コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき   4   2   2   2   2   2   2   2   2   2					るか説明できる。				4	
ことを認識している。					の抱える課題を説明できる。				4	
している。   技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要   4   技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要   4   技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動   4   を行った事例を挙げることができる。   高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように   5   活用・応用されているかを認識できる。   企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることがで   4   1   1   1   1   1   1   1   1   1					ことを認識している	る。			4	
とされることを認識している。						成長していくこと;	が求められているこ	ことを認識	4	
を行った事例を挙げることができる。									4	
活用・応用されているかを認識できる。									4	
きる。					高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように 活用・応用されているかを認識できる。				4	
能力」の必要性を認識している。					企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることがで				4	
総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       との表の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点をから課題解決のために配慮すべきことを認識している。要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこをができる。       4         評価割合       試験       発表・課題       相互評価       態度       ポートフォリオ       その他       合計         総合評価割合       50       50       0       0       0       0       100         基礎的能力       50       50       0       0       0       0       0       100         専門的能力       0       0       0       0       0       0       0       0					コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。				4	
総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       総合的な学習経験と創造的思考力       公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点 4 のら課題解決のために配慮すべきことを認識している。 要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこまができる。       4         評価割合       試験       発表・課題       相互評価       態度       ポートフォリオ その他 合計 のの 100       合計 のの 2 の 100         総合評価割合       50       50       0       0       0       0       100         基礎的能力       50       50       0       0       0       0       0       0         専門的能力       0       0       0       0       0       0       0       0									4	
造的思考力     造的思考力     造的思考力     要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。       評価割合       試験     発表・課題     相互評価     態度     ポートフォリオ     その他     合計       総合評価割合     50     50     0     0     0     0     100       基礎的能力     50     50     0     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0		総合的な学総領の経験に		<del>_</del>						
評価割合       試験     発表・課題     相互評価     態度     ポートフォリオ     その他     合計       総合評価割合     50     50     0     0     0     0     100       基礎的能力     50     50     0     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0		造的思考力。造的思考力。造的思考力。			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこ				4	
総合評価割合     50     50     0     0     0     0     100       基礎的能力     50     50     0     0     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0     0	評価割合	,		ı						1
基礎的能力     50     50     0     0     0     0     100       専門的能力     0     0     0     0     0     0     0		試験	į	発表・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	†
専門的能力 0 0 0 0 0 0 0			+		+-	-	-	+-		
	基礎的能力				+-	-	+ -	-		)
分野横断的能力   0   0   0   0   0   0	専門的能力				+-	-		1		
	分野横断的能	:刀  0	(	J	ĮU	ĮU	[U	[0	[0	